十日町市博物館 年報

— 第 1 号 —

平成 26 年度

刊行にあたって

当館は昭和54年（1979）の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに掲げ、「雪」と「織物」と「信濃川」を柱に活動を続けてきました。その中で、重要文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料2,098点」（昭和61年指定）、同「十日町の積雪期用具3,868点」（平成３年指定）、すばらしい造形美を誇る火焔型土器を含む国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器57点（附871点）」（平成11年指定）を生み出しています。また、展示もこれまでに増築およびリニューアルを行い、三つの常設展示室をもつにいたりました。そして、平成26年（2014）４月、当館は開館35周年を迎えました。平成31年（2019）には、開館・友の会設立40周年と新館のオープンがひかえており、今後も両者は車の両輪のごとく協力して様々な活動を続けて行きます。開館35周年という節目にあたり、第１号の年報を刊行いたしました。本書をご高覧いただき、ご指導とご鞭撻いただければ幸いです。

十 日 町 市 博 物 館

目　　次

Ⅰ　館の運営 …… 1
　１．来館者の状況 …… 1
　２．博物館協議会 …… 2
　３．予　算 …… 3
Ⅱ　事業の概要 …… 4
　１．教育普及・展示事業 …… 4
　２．博物館リニューアル事業 …… 9
　３．資料の収集・貸出 …… 14
　４．その他の事業 …… 15
Ⅲ　調査・報告 …… 16
　・特別寄稿「地域博物館の可能性」　佐々木 秀彦（東京都美術館）…… 16
　・館蔵資料報告「伊達八幡館跡出土の管耳瓶と龍耳壺」　菅 沼　亘（学芸員）…… 17
Ⅳ　博物館友の会 …… 19
附編　館の沿革・施設概要 …… 20

例　　言

１．本書は、十日町市博物館の平成26年度・事業報告である。
２．特別寄稿として、佐々木秀彦氏より玉稿を賜った。
３．本書に掲載されている写真の無断掲載（転載）を禁じる。すべての著作権は十日町市博物館と撮影者・提供者に帰属する。
４．本書の編集は菅沼　亘（学芸員）が行った。原稿の執筆は職員で分担し、文末に氏名を明示した。
５．本年度の事業を行うにあたり、関係諸機関および多くの皆様から多大なるご協力をいただいた。個々に名前を記すことはできないが、お礼申し上げる。

表紙写真：国宝 笹山遺跡 火焔型・王冠型土器（撮影：小川忠博）

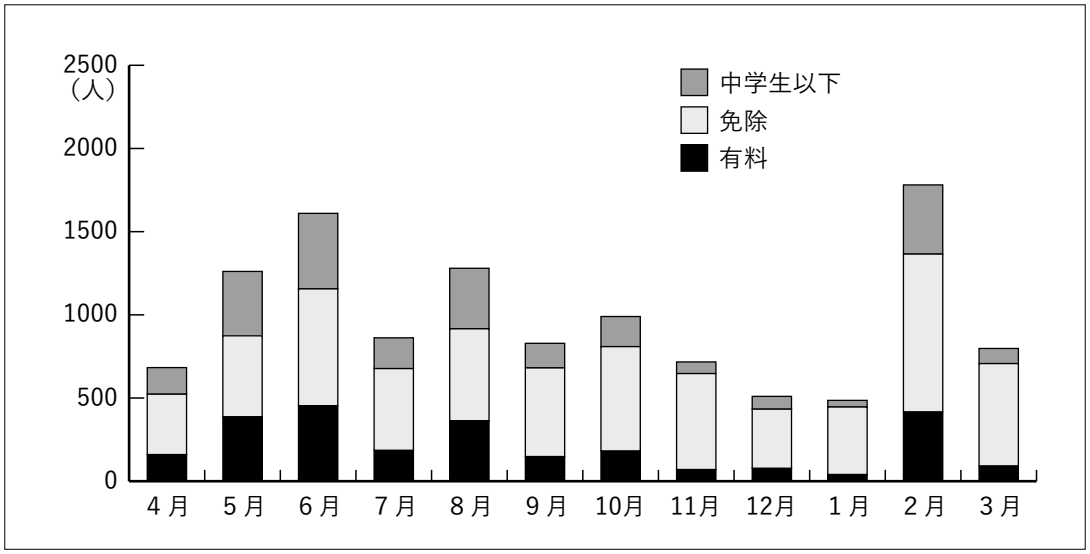
Ⅰ　館の運営

１．来館者の状況

①月別の推移

来館者の月別推移は、以下のとおりである。中学生以下は無料、高校生以上が有料となっている。

区　分		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合 計
一般	有　料	297	870	563	532	1,133	737	835	752	100	135	403	268	6,625
	免　除	363	487	702	492	552	533	628	577	356	406	949	616	6,661
中学生以下		160	387	454	185	364	148	181	70	77	40	416	91	2,573
合　計		820	1,744	1,719	1,209	2,049	1,418	1,644	1,399	533	581	1,768	975	15,859



月別来館者数一覧

②団体と視察の受入れ状況

小・中学校とその他の団体の受入れ状況は以下のとおりである。　（引間 佳子）

	小　学　校　名
1	十日町市立西小（２･３･６年）
2	十日町市立川治小（６年）
3	南魚沼市立第2上田小（６年）
4	上越市立大島小（６年）
5	魚沼市立堀之内小（６年）
6	南魚沼市立北辰小（６年）
7	南魚沼市立浦佐小（６年）
8	南魚沼市立三用小（６年）
9	魚沼市立広神西小（６年）
10	十日町市立吉田小（６年）
11	柏崎市立北鯖石小（６年）
12	十日町市立上野小（３年・歴史クラブ）
13	十日町市立中条小（３・６年）

	小　学　校　名
14	東京都トキワ松学園（６年）
15	南魚沼市立中之島小（６年）
16	南魚沼市立塩沢小（６年）
17	十日町市立橘小（３年）
18	十日町市立飛渡第一小（３･４年）
19	埼玉県東鷲宮小学校（６年）
20	十日町市立田沢小（３年）
21	十日町市立水沢小（３年）
22	十日町市立鐙島小（３年）
23	津南町立外丸小（３･４年）
24	十日町市立千手小（３年）
25	十日町市立下条小（３年）
26	十日町市立十日町小（３年）

	中　学　校　名
1	十日町市立中条中（１年）
2	上越市立吉川中（２年）
3	十日町市立十日町中（３年）
4	十日町市立川西中（１年）
5	十日町市立水沢中（１年）

小・中学校一覧

	団　体　名		団　体　名		団　体　名
1	毎日新聞旅行	19	三芳町文化協会	37	佐野市文化財課
2	JR東日本 新潟支社	20	みつこしトラベル	38	群馬県みどり市教育委員会
3	東京都港区古代史研究会	21	十日町・コモ姉妹都市交流協会	39	ブラジル駐日大使
4	JR西日本ジパング倶楽部	22	川越縄文土器の会	40	大田区職員退職者会
5	越乃TSUMARI春号	23	長野県富士見町教育委員会	41	金沢美術工業大学
6	越乃TSUMARI夏号	24	茶臼会	42	青山きもの学院
7	石彫シンポジウム実行委員会	25	㈱ウメト	43	やまて・中条交流
8	地域活動支援センタードレミハウス	26	和光市コミュニティ協議会	44	新潟県石仏の会
9	長岡市表町コミュニティセンター	27	飯水退職校長会	45	筬の会
10	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	28	NPO SAN	46	埼玉県和光市
11	スタジオ・ディーヴァ・ガイア	29	しぶみの家	47	上越市議会
12	不動老人クラブ	30	茨城県八千代町	48	宮崎県小林市議会
13	山形県川西町文化財保護協会	31	寺友の会	49	下条公民館
14	上越市浦川原地区公民館	32	新潟縄文を楽しむ会	50	栃木県益子町議会
15	小樽子ども連絡協議会	33	上越市たけのこ会	51	栃木県栃木市議会
16	世田谷区食品衛生協会	34	練馬区老人クラブ連合会	52	考古学ツアー
17	県央食品衛生協会	35	東京八王子プロバスクラブ	53	長野県茅野市
18	㈱プロテックエンジニアリング	36	三条市栄公民館	54	山形県舟形町

その他の団体一覧

２．博物館協議会

協議会は年に２回開催され、各回の詳細は以下のとおりである。委員は計10名で、平成25年度よりその一部を公募している。

・第１回　10月９日　13：30～15：00　委員７名出席

報告：平成26年度の博物館の方針と重点・事業計画と予算の説明

　　前半期の博物館事業・入館者の状況について

協議：博物館リニューアル事業の基本構想について

・第２回　平成27年３月23日　13：30～14：30　委員４名出席

報告：後半期の博物館事業・入館者の状況について

協議：新十日町市博物館の基本構想について　（大滝 孝子）

氏　名	職業・所属団体（役職など）	備　考
柳　沢　博	十日町市立西小学校 校長	学校教育
市　村　正　史	十日町市文化協会連合会 副会長	社会教育
柳　典　孝	十日町青年会議所 副理事長	社会教育
星　名　信　昭	十日町市博物館友の会 会長	社会教育
宮　崎　伸　夫	会社役員	学識経験者
柳　隆　子	自営業	学識経験者（松之山地区）
奥　山　寛　千	僧侶（住職）	学識経験者（川西地区）
富　澤　康　子	主婦	学識経験者（松代地区）
吉　楽　高　義	農業	学識経験者（中里地区）
根　津　東　六		公募

博物館協議会委員一覧（任期：平成25年4月1日～平成27年3月31日）

３．予　算

平成26年度の予算は以下のとおりである。一般経費と施設維持管理費を除いた博物館事業費の歳出総額（補正後）に占める割合は41％となっている。　（矢口 ヨネ子）

歳入予算　（単位：千円）

款　　項　　目				
節	説　明	当初予算額	補正額	補正後予算額
13款　使用料及び手数料	１項　使用料　　７目　教育使用料			
５．博物館入館料	５．博物館入館料	1,500	0	1,500
13款　使用料及び手数料	１項　使用料　　７目　教育使用料			
5．博物館入館料	10．施設使用者使用料	33	0	33
20款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
８．教育雑入	１．私用電話料	1	0	1
20款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
８．教育雑入	２．私用コピー使用料	1	0	1
20款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
８．教育雑入	３．施設使用者電気料	24	0	24
20款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
８．教育雑入	70．古文書講座資料代	40	0	40
20款　諸収入	５項　雑入　　２目　雑入			
８．教育雑入	98．その他雑入	1	0	1
21款　市債	１項　市債　　６目　過疎対策事業債			
７．教育債	19．博物館リニューアル事業	5,300	0	5,300

歳出予算　（単位：千円、千円未満切り上げ）

節		当初予算額	補正額	補正後予算額
１．報　酬	博物館協議会委員	110	0	110
７．賃　金	臨時職員賃金	988	△160	828
８．報償費	講師謝礼・指導者謝礼ほか	373	255	628
９．旅　費	費用弁償・普通旅費	328	175	503
11．需要費	消耗品費・燃料費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	13,670	100	13,770
12．役務費	通信運搬費・手数料・保険料	2,410	3	2,413
13．委託料	清掃業務ほか維持管理委託･収蔵物燻蒸業務･収蔵物移動作業	6,423	160	6,583
14．使用料ほか	テレビ受信料・コピー機リース料・自動車レンタル代	995	93	1,088
18．備品購入費	庁用車購入費	2,988	672	3,660
19．負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金	46	0	46
	計	28,331	1,298	29,629

事業別歳出予算内訳　（単位：千円、千円未満切り上げ）

事　　業　　名	当初予算額	補正額	補正後予算額
一般経費	1,015	6	1,021
博物館施設維持管理（除排雪経費含む）	16,372	0	16,372
国宝発信事業	521	0	521
博物館リニューアル事業	7,033	578	7,611
教育普及・展示事業	2,688	202	2,890
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	702	512	1,214
計	28,331	1,298	29,629

Ⅱ　事業の概要

１．教育普及・展示事業

①教育普及事業

博物館講座

本講座は市民を対象としたのもので、平成24年度より郷土の遺産をテーマとして６月に行われている。平成24年度は越後縮、平成25年度は自然、今年度は石仏がテーマであり、後述する夏季企画展と連動する内容とした。各回の演題と講師は以下のとおりである。全３回で46人の受講者があった。受講料は無料である。

第１回：６月14日(土)「下越の石仏と民俗行事」
　　大楽正和 氏（新潟県立歴史博物館 研究員）
第２回：６月21日(土)「中越ぶらり石仏探訪」
　　桑原和位 氏（つまり石仏の会 会員）
第３回：６月28日(土)「大光寺石と石仏」
　　大坪　晃 氏（新潟県石仏の会 会員）

博物館講座の様子

古文書入門講座

本講座は古文書解読の初心者を対象としたもので、市内の史料をテキストにして古文書に親しむと共に、郷土の歴史を学ぶことを目的としている。昨年度に続き、講師は林　悦郎氏（博物館友の会・古文書研究グループ）にお願いした。講座は６～３月の土曜日（隔週・午前）に行われ、回数は全17回である。今年度の受講生は計19人、内２人が新規の申し込み、その他は昨年度からの継続であった。また、受講生よりテキスト代（2,500円）を徴収している。

博物館開館・友の会設立35周年／笹山遺跡出土品国宝指定15周年記念講演会

11月８日(土)、青柳正規文化庁長官を講師に招いて、十日町地域地場産業センター（クロステン）の大ホールを会場に講演会を開催し、450人を超える聴講者が参集した。演題は、「イタリアの考古学・日本の考古学」である。長官は、自身がイタリアのポンペイ（1974～76年)、アグリジェント（1979～86年)、タルクィニア（1992～95年)、ソンマベスビアーナなどで調査を行ったベスビオス火山噴火の被災遺跡と日本の浅間山、榛名山などの噴火に被災した遺跡の比較検討から、これらの遺跡には一般の遺跡よりも多くの情報が遺されており、自然災害を受けた遺跡の重要性を指摘された。また、講演会に先立って、当館の展示室および考古収蔵庫と会場に隣接する越後妻有里山現代美術館キナーレを見学されている。

青柳文化庁長官

講演会の様子

考古展示室の見学

博物館開館・友の会設立35周年記念講演会

11月29日(土)、東京都美術館･学芸員(交流係長)の佐々木秀彦氏を講師に招いて、十日町情報館(第１集会室）を会場に記念講演会「地域博物館の可能性」を開催した。共催は博物館友の会、信濃川火焔街道連携協議会、後援は新潟県博物館協議会である。佐々木氏は江戸東京博物館、江戸東京たてもの園、東京都歴史文化財団事務局を経て現職に就かれ、ミュージアム論、文化資源論を専門とされている。主な著書に、『コミュニティー・ミュージアムへ―「江戸東京たてもの園」再生の現場から―』(岩波書店）などがある。講演の内容は、地域博物館の現状と課題、国内外の事例紹介、今後の取組み、十日町市博物館の今後に向けてである。なお､特別寄稿として講演要旨を寄稿していただいた(16頁)。詳細はそちらを参照願いたい。

本講演会は、県内外の学芸員など博物館関係職員を対象に企画したものであったが、予想以上に友の会員や市民からの申し込みがあり、当日の受講者は定員の40人を超えている。今後の博物館と友の会が目指す方向を考える上で非常に有意義なものであり、また、講演会終了後の当館職員との懇談会では、新館建設に向けて参考となる貴重なご意見を伺うことができた。

講演会の様子

子ども博物館

本事業は、市内の小学４～６年生を対象とした体験教室である。今年度は以下のとおり、縄文体験を全３回行った。各回とも定員15名(事前申込)､参加費(材料費)を徴収し､保護者も参加可能とした。

①８月２日(土)　土器づくり（参加者：20人）
②10月11日(土)　縄文クッキーづくり（参加者：５人）
③12月13日(土)　ミニチュア土器・コハクの勾玉づくり（参加者：６人）

土器づくり

縄文クッキーづくり

ミニチュア土器・勾玉づくり

博学連携

本事業は、平成14年に発足した信濃川火焔街道連携協議会(新潟市・三条市・長岡市・十日町市・津南町）が行う事業の一つ、火焔街道博学連携プロジェクトに伴うものである。このプロジェクトは、縄文を総合学習のテーマとする小学校が集まり、そこに地域の学芸員が協力し、体験や研究活動を行い、その成果に基づいて交流学習会、フォーラム、展覧会へと展開する事業で､平成15年度より開始された。今年度は、長岡市立関原小学校(97名)、小千谷市立吉谷小学校(９名)、十日町市では下条小学校（28名)、中条小学校（35名)、鐙島小学校（14名）の６年生が参加している。この内の交流学習会が、６月30日(月)に当館と総合体育館において行われた。また、10月30日(木)に

交流学習会の様子

は、中条小学校においてドングリクッキーづくりの出前授業を行っている。

なお、新年度より小学校による博物館の利用促進を図るため、市内小学校の教員を対象とした要望調査を行った。この調査結果を基に具体的なメニューを決定し、学校に提案する予定である。

②展示事業

夏季企画展「松代の石仏　―里山の祈りと信仰―」

本展は博物館開館・友の会設立35周年を記念して、博物館友の会との共催で開催された。会期は、７月19日(土)～８月24日(日)の37日間、観覧者数は計2,323人である。７月19日(土)～21日(月・海の日)の３日間については、市民に限り観覧無料とした。本展では、友の会いしぶみ研究グループが３年間をかけて行った市内松代地区における石仏悉皆調査の成果を活用して、里山の路傍にたたずむ石仏を紹介すると共に、そこに暮らす人々の祈りと信仰に迫ることを目的とした。

企画展のポスター・チラシ

展示構成は、①松代地区の石仏概要、②里山の祈り―石に彫られた姿―、③里山の信仰―石に刻まれた文字―、④十日町市の石仏案内である。①では、同グループによる調査結果の概要を解説している。②は神仏の姿が彫られた像塔、③では信仰に関わる文字碑を紹介し、写真パネル中心の展示であるが、地区の方々から理解と協力を得て、実物を計18体展示している。④は、市内でも容易に見学できる石仏群を紹介した。

また、８月９日(土)午後には渡邉三四一氏(柏崎市立博物館・学芸員)を招いて、記念講演会「あしもとの文化遺産―路傍の石仏に学ぶ―」を開催し、50人の聴講者が参集している。これまで松代地区は、新潟県内において石仏調査の空白地域の一つであり、本展によりこれを解消することができたものと思われる。現在、同グループは隣接する松之山地区の調査を進めており、終了後には同様な形で成果の公開を予定している。

今回の企画展では、事前調査および石仏の搬入・搬出作業などにおいて同グループの会員より多大なる協力を得た。なお、パンフレット（Ａ３・二つ折り）を無料配布、記念講演会の要旨を収録した図録をミュージアムショップで有料頒布している。

企画展会場（里山の祈り）

企画展会場（里山の信仰）

記念講演会の様子

秋季特別展「縄文前期のムラ 赤羽根遺跡　―火焔型土器の出現前夜―」

本展は笹山遺跡出土品国宝指定15周年を記念して、博物館友の会、信濃川火焔街道連携協議会との共催で開催された。会期は９月27日(土)～11月９日(日)の44日間、観覧者数は計2,464人である。10月11日(土)～13日(月・体育の日)の３日間については、市民に限り観覧無料とした。赤羽根遺跡は、1983・84年（昭和58・59）年に市教育委員会によって調査された縄文時代前期後半（諸磯ｂ～ｃ式期）の集落跡で、当該期の良好な資料が出土している。本展では調査から30年目を迎え、本遺跡資料と合

わせて新潟、群馬、長野、山梨県内における同時期の出土品を展示し、火焔型土器の出現前夜に花開いた前期文化を紹介した。

展示構成は、①赤羽根遺跡と市内の前期遺跡、②縄文人の暮らしと道具、③浅鉢形土器の発達、④周辺地域の土器である。①は赤羽根遺跡を中心に市内の主な出土品、②では石匙・黒曜石原石・玦状耳飾など前期の特徴的な石器・装身具類のほか、土偶・石棒などの呪術具、③は諸磯式期に特徴的に出土する有孔浅鉢の優品を一堂に展示した。④では新潟県内および周辺地域の代表的な前期の土器を集めている。また、10月25日(土)午後には、大工原豊氏（國學院大學文学部講師）を招いて、記念講演会「縄文時代前期の集落と文化交流」を開催し、30人の聴講者が参集した。また、パンフレット(Ａ３・二つ折り)を無料配布、記念講演会の要旨を収録した図録をミュージアムショップで有料頒布している。

特別展のチラシ・ポスター

特別展会場（①・②）

特別展会場（③・④）

記念講演会の様子

巡回展「子ども縄文研究展 2014　―縄文のメッセージ・私のメッセージ―」

本展は上述の博学連携プロジェクトに伴うもので、主催は火焔街道博学連携プロジェクト、共催は新潟県立歴史博物館、十日町市博物館、津南町農と縄文の体験実習館なじょもん、後援が信濃川火焔街道連携協議会である。会期は平成27年１月17日(土)～２月22日(日)の37日間、観覧者数は1,817人であった。本展では、プロジェクトに参加した各小学校の６年生が１年間をかけて学習したテーマについて、パネル、模型などを使用して解説し、また、体験学習で製作した土器、勾玉なども展示されている。

巡回展会場

移動展「珠川台地の縄文遺跡」

あてま森と水辺の教室ポポラ（㈱当間高原リゾート内）において、同施設が所在する珠川地区の大井久保・ぼんのう遺跡から出土した土器を展示した。期間は、７月31日(木)～９月30日(水)である。また、期間中に開催された土器づくり体験(８月12日)、縄文講座(９月13日)に学芸員を派遣している。

ロビー特設展示

本展示はロビー壁面ガラスケースの有効活用とリピータの増加を図り、館蔵資料などを定期的に入れ替えて展示するものである。今年度は以下のとおり、５回実施した。

・４月29日(火)～６月22日(日)　　市指定文化財「縮問屋加賀屋 蕪木家資料」
・７月１日(火)～８月31日(日)　　市指定文化財「群馬図屏風 雲谷等顔筆 六曲一双」

・９月17日(水)～10月26日(日)　　市指定文化財「幅上遺跡出土品」
・11月１日(土)～12月26日(金)　　「写真で見る博物館と友の会 35年の歩み」
・１月17日(土)～３月29日(日)　　「昭和のくらし ―博物館に寄贈された昔の道具―」

群馬図屏風（雲谷等顔筆）

幅上遺跡出土品

博物館と友の会35年の歩み

貸　　館

十日町市書道協会が特別展示室と会議室を使用して、「設立20周年記念書道協会展」を開催している。会期は６月６日(金)～８日(日)の３日間、観覧者数は219人（観覧無料）であった。なお、同展の後援が十日町市教育委員会であったため、会場使用料を免除している。

③そ　の　他

博物館実習

７月31日(木)～８月６日(水)まで、実習生を受け入れた。受入れ大学と人数は、金沢学院大学文学部１人、長岡造形大学視覚デザイン科２人の計３人である。実習では民俗・考古資料の整理、教育普及活動の補助、受付業務、市内博物館関連施設の見学などを行っている。

職場体験

７月上旬～８月上旬まで、中学２年生の職場体験を受け入れた。受入れ中学校・人数と期間は、中条中学校３人（８月４～６日)、中里中学校１人（８月５・６日)、松代中学校２人（７月17・18日)、津南中等教育学校１人（７月８・９日）の計７人である。体験では民俗・考古資料の整理、遺跡の発掘調査、受付業務などを行った。

学芸員の派遣・研修参加

学芸員の講演会などへの派遣および各種研修への参加状況は以下のとおりである。　　（菅沼　亘）

講師･参加者	演 題・研 修 名	講座名・主催者など	会　　場	日　　時
阿部　敬	火焔の都整備事業について	笹山と笹山じょうもん市を愛する会 (NPO法人笹山縄文の里)	中条地区公民館	７月31日
阿部　敬	十日町・津南の旧石器～縄文時代について	十日町北ロータリークラブ	十日町商工会議所	11月26日
菅沼　亘	珠川台地に暮らした縄文人	あてま森と水辺の教室ポポラ	同左	９月13日
菅沼　亘	縄文時代中・後期の大集落　野首遺跡	下条小学校職員研修	下条小学校	10月17日
菅沼　亘	十日町市の古代	十日町北ロータリークラブ	十日町商工会議所	平成27年１月14日
菅沼　亘	縄文時代中期の華　火焔型土器	北の縄文セミナー(北の縄文道民会議)	北海道庁赤レンガ庁舎	平成27年２月７日
菅沼　亘	博物館友の会研究グループと協働で行う教育普及事業の意義 ―平成26年度・夏季企画展「松代の石仏」から―	第７回つまり市民里山学会 (越後松之山・森の学校キョロロ)	十日町情報館	平成27年３月7日
菅沼　亘	平成26年度・博物館学芸員専門講座	文部科学省・国立教育政策研究所 社会教育実践センター	同左	12月10～12日
菅沼　亘	平成26年度・研究協議会 ―多様化する博物館の理念と制度―	(公財)日本博物館協会	東京都美術館	平成27年３月26日

学芸員の派遣・研修参加一覧

２．博物館リニューアル事業

①新十日町市博物館建設

はじめに

現在の博物館を耐震化・改修し展示リニューアルを行うために、平成22年度に「十日町市博物館展示替え構想検討会」（委員５人）を３回開催し、「博物館としてのテーマ設定について」、「新博物館の特色について」、「資料収蔵と資料展示スペースについて」、「博物館の具体的展示に向けた検討」、「雪に関した展示事例」の５項目について提言をいただいた。その後、平成24年度までに耐震診断、改修基本計画の検討などを行ってきた。私は前任者から以上のような引き継ぎを受け、平成25年度から本事業を担当することになった。

新たな風が吹く

平成25年９月２日、信濃川火焔街道連携協議会の第12回縄文サミット（総会）が開催され、構成市町の新潟市、三条市、長岡市、十日町市、津南町の首長が揃った席上で、協議会顧問の小林達雄氏（國學院大學名誉教授）から次のような発言があった。「もうすぐ2020年のオリンピック・パラリンピック開催地が決定する。開催地が東京に決まったら、聖火台のデザインに火焔型土器を採用してもらうとよいのではないか。」、５市町の首長はこぞって賛同の意を示した。そして９月８日、IOC総会で2020年のオリンピック・パラリンピック開催地が東京に決定した。これを契機に、博物館リニューアル事業に新たな風が吹き始めることになった。

まず、９月21日、下村博文文部科学大臣が十日町市を訪問し、新しく開校したふれあいの丘支援学校や博物館、国宝出土地・笹山遺跡などを視察された。この機会をとらえて、関口市長が「2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台デザインに国宝・火焔型土器を採用するよう」要望書を手渡した。さらに、12月19日には、関口市長が文部科学省を訪問し、下村大臣に国宝火焔型土器のレプリカを贈呈した。このレプリカは、文部科学省旧館2階にある「情報ひろば」に、その日のうちに展示された。

その後、「火焔型土器を聖火台に」の運動をPRするために、この運動のメッセージを入れた十日町市観光名刺２種類の作成や、懸垂幕を市内４か所に掲出するなどの事業を展開した。

平成26年７月10日、信濃川火焔街道連携協議会の第13回縄文サミットにおいて、「火焔型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に」のアピール宣言がなされた。また、首長の意見交換の中で、火焔型土器を聖火台のデザインに採用してもらうのみでなく、オリンピックを契機に日本文化の源流である「縄文文化」を世界に発信することとし、協議会の５市町を核として、県外の市町村との連携も視野に入れながら活動を展開して行くことが確認された。

第13回 縄文サミット アピール宣言

新博物館建設に向けての検討

新たな風が吹いたことを受けて、平成25年度中に耐震改修・展示リニューアルの場合と、新館建設の場合の費用と効果について協議を行った。その結果、耐震改修・展示リニューアル工事の場合、①約2年間の休館が必要となる、②増築工事をした建物のため、見学者の動線をうまく設定できない、③ジオラマは現在のままという計画であるため、リニューアル効果があまり期待できないという課題

が確認できた。さらに、新館建設でないと縄文文化を前面に出した展示を行うのは難しいとの結論に至り、新館建設について検討を進めることになった。

平成26年10月末には、博物館職員で検討を重ねた新博物館の基本構想の素案を取りまとめ、庁議による検討の結果、建設スケジュールを1年前倒しすることになった。そして、11月11日に開催された市議会総務文教常任委員会において、下記のような新博物館建設について説明を行った。

新博物館の基本構想（素案）

○建設場所　　遺跡広場（現在の博物館の東側）
○建築面積　　1,000㎡、延べ床面積　3,000㎡
○概算経費　　2,339,000千円
○展示テーマ　「国宝・火焔型土器のふるさと　―雪と織物と信濃川―」
○常設展示室　1,000㎡
　①「火焔型土器のクニ　十日町」… 国宝「笹山遺跡出土品」928点
　②「織物」… 重文「越後縮の紡織用具及び関連資料」2,098点
　③「雪と地域文化の特色」… 重文「十日町の積雪期用具」3,868点
○建設スケジュール

内　　容	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
基本構想策定	●						東京オリンピック・パラリンピック
基本計画策定		●					
基本設計・実施設計			●				
建築工事				●			
展示工事					●		
新館オープン						●	

新十日町市博物館の使命

上記のような一連の動きが終了した後に、新博物館の基本構想（素案）をさらに分かりやすい表現にするため、「新十日町市博物館の使命」としてまとめ直し、新十日町市博物館基本構想（案）として取りまとめた。

新十日町市博物館基本構想（案）　抜粋

1　新博物館の基本理念
「市民・来館者とともに考え、活動し、成長する博物館」
2　新博物館のビジョン
　新しい博物館は、十日町の多様で豊かな自然と歴史・文化について、市民・来館者の皆さんとともに探究し、保全・継承し、その価値を世界に発信します。このことにより、十日町の特徴と素晴らしさに気づき、地域をよりよくしようとする人々が集い、誇りと活気に満ちた社会づくりを目指します。
3　新博物館の使命
　新しい十日町市博物館は、かけがえのない地域の財産である国宝・笹山遺跡火焔型土器群をはじめとした縄文文化と古代にまで歴史がさかのぼる織物文化を守り継承して、その魅力を国内外に広

く情報発信する施設です。そして、以下の使命を掲げて活動します。

(1) 市民の知的関心に応えるため、資料や情報を収集・保管、調査・研究、展示・普及し、生涯学習の拠点としてその役割を果たします。

(2) 地域の歴史や文化に対する市民の理解を深め、より良い未来に向かって市民と共に新しい価値を創造します。

(3) 魅力ある財産として地域固有の歴史・生活文化・産業に光をあて、その活用を通した来館者との交流により地域振興に貢献します。

4　新博物館の使命を実現するための基本方針

使命を実現するために以下の取り組みを行います。

〈展　示〉

・常設展示は、「国宝・火焔型土器のふるさと―雪と織物と信濃川―」をテーマに、「縄文時代と火焔型土器のクニ」、「織物の歴史」、「雪・信濃川と地域文化」の３つで構成します。

・展示は実物資料を中心とし、映像・音声・模型・参加体験型展示などの手法も取り入れ、誰もが親しめるわかりやすい展示を行います。

・実物資料の展示にあたっては、その保存と管理に十分配慮します。

・博物館友の会研究グループや古文書整理ボランティア等の調査、研究成果を展示に活かします。

〈教育普及〉

・講座や講演会、体験活動、調査研究に基づいた企画展や特別展を開催し、市民と共に知的楽しみを分かち合います。

・学校教育を積極的に支援し、地域に対する子どもたちの理解を深めます。

・市民による展示解説案内などボランティアの育成を行い、来館者と市民との交流を通して市民の生きがい作りを促進します。

〈資料収集・保管〉

・体系的に地域資料を収集、整理、保管し、市民共有の財産として次世代に継承します。

・博物館友の会研究グループや古文書整理ボランティア等と協働して資料整理を行います。

〈調査研究〉

・調査研究を継続的に行い、新たな事実や価値を発見して博物館活動に反映します。

〈情報発信と公開〉

・誰もが調べることができる学習拠点として情報を発信し、収集した地域資料や図書、調査研究の成果であるデータベースなどを公開します。

〈対話と連携〉

・開館当初からのパートナーである博物館友の会と共に博物館を育てます。

・市民および来館者、他の博物館や関係機関との対話と連携を基に活動し、市民と共に成長します。

〈施設の管理〉

・安心と安全を第一に、誰にもやさしい博物館として施設を運営し、危機管理を行います。

おわりに

平成26年度は、新しい博物館建設に向けてようやく一歩を踏み出すことができた。平成27年度は、いよいよ具体的な基本計画の策定に着手し、平成31年度のオープンを目指すことになる。そして、新館がオープンする平成31年度は、博物館開館40周年、博物館友の会設立40周年、笹山遺跡出土品国宝指定20周年の節目に当たる。さらに、新博物館の展示テーマのうち、「縄文文化」は日本文化の源流

であり、当地方の生業である「織物」は日本の民族衣装である。どちらの展示テーマも2020年東京オリンピック・パラリンピックを機に、日本文化を世界に向けて発信できる素材であることから、新しい博物館は日本文化を世界に発信できる施設として整備を進めていくことになる。　（佐野 芳隆）

②博物館におけるクラウド型データベースシステムの構築

現在、博物館において館内に収蔵庫が７か所、館外には川西、高倉、中里、高道山の４か所に文化財資料収蔵庫がある。この中に国宝・重要文化財を含む数万点の文化財が眠っている。しかし実際のところ、市民から問い合わせがあっても、「問い合わせの文化財がどのようなもので、どこに収蔵させているか」が簡単には分からなく、説明しにくい状況になっている。

iPad を使用した収蔵資料の検索

そこで、新博物館が完成するまでにデータベースシステムの構築を完了させ､収蔵資料を一元管理し、新博物館に移動するものを選別し、さらには収蔵資料について学芸員でなくても一次対応や写真で確認できるようにし、問い合わせがあればいつでも対応できるよう今年度からシステム構築を始めた。

データベースの構築には、従来は数千万円かけてサーバを構築し、５年ごとにハードウエアの更新と毎日のバックアップ作業が必要になる。ところが近年では、自分ではハードウエアを持たずサービスのみを買う時代になってきた。このようなサービスをクラウド型サービス（SaaS（Software as a Service））といい、ハードウエアはサービス提供会社が自前で整備し、サーバの更新も業者側ですべて行い、バックアップも東日本と西日本で分けて業者側が毎日行うなど、面倒なメンテナンス等は一切必要なく、毎月の使用料以外には一切料金が発生しないものがでてきた。

その代わり、インターネット回線が必須になる。サーバを持たない替わりに、そこまでの有線・無線回線が必要になる。しかし、このおかげでLAN環境のない博物館の収蔵庫内や高倉、高道山の山間部の文化財資料収蔵庫においても、今年度導入したiPad１台で携帯電話の通信回線を使い、登録や検索、現物写真の撮影など場所を選ばずに利用することができる。またPC端末も選ばないので、どこでも作業を行うことができるのも利点である。

さらにiPadで撮影した写真には、地理位置情報が自動的に付与される。これは写真データの中に緯度と経度の情報が自動的に記録され、その撮影された場所が詳細に特定できる。十日町市の地理位置情報システム（GIS）にiPadで撮影した写真をメールで送ると、GIS上の地図に撮影した場所と写真が自動的に登録される。指定文化財は市内に200か所近くあるが、特に天然記念物の指定文化財は道がないような山間部に多くあり、GISを活用することで文化財の位置や災害時の崩落箇所把握などを簡単に知るために有効な手段となる。

このクラウド型データベースシステムは利用料が変わらないが、機能は毎年増えて行く。例えば、写真をインターネット公開する機能である。通常は写真の流出を防ぐためウォーターマークなどを入れるが、これはコピーやドラッグができないように対策されている。また、来年度中にはGoogle Mapとの連携も行われる予定で、公開情報に位置情報も付加させることも可能になる。

現在は、国指定重要有形文化財の越後縮2,098点と十日町の積雪期用具3,868点についてデータ化が終わっている。順次データ化を進め新博物館完成までには「文化財の活用」が促進されるよう整備する。　（佐野 誠市）

③復元住居茅葺屋根修繕・収蔵庫燻蒸・復元住居シロアリ駆除

復元住居茅葺屋根修繕

博物館の遺跡広場には、市立西小学校建設に伴って発掘調査（昭和49・50年）された馬場上遺跡（古墳～奈良・平安時代）の復元住居１棟が建てられている。今回、この茅葺屋根が苔むしたことにより経年劣化が進み、冬囲いのための屋根シートの設置が困難となったため、屋根の全面的な葺き替えを行った。屋根各面とも平葺茅を取り除いて新茅で葺き替え、軒付は腐朽部分のみ取り除き新茅で補修し、水切り茅を取り付けている。棟は一旦解体し、内部補修の上やり替えを行った。

建　　設　　昭和63年５月22日

基礎の補強・改修

期　　間：平成21年４月28日～６月30日

事 業 費：3,780,000円

施工業者：有限会社 丸池工務店

茅葺屋根修繕（今年度）

期　　間：平成26年６月26日～８月４日

事 業 費：5,292,000円

施工業者：株式会社 越乃かやぶき（魚沼市）

復元住居茅葺屋根の葺き替え

収蔵庫燻蒸

国重要文化財に指定されている民俗資料および着物などの重要資料が収納されている収蔵庫の燻蒸作業を行った。

期　　間：平成26年６月26日～７月22日

実　　施：準備作業（７月13日）、燻蒸実施（７月14・15日）、排気作業（７月16・17日）

事 業 費：2,041,200円

使用薬剤：エキヒュームＳ

処理方法：各収蔵室の入口・換気扇・点検口等の開口部を目張り、密閉しての密閉燻蒸処理法

施工業者：株式会社　ピコイ

復元住居シロアリ駆除

復元住居の柱にシロアリ被害が発見されたため、被害柱に薬剤（ステルスＳＣ）を注入、吹付ならびに床面、建物周囲にも薬剤（ステルスＳＣ・アジェングＭＣ）を注入した。

期　　間：平成26年９月29日～ 10月31日

事 業 費：86,400円

施工業者：株式会社　ピコイ

収蔵庫の密閉

燻蒸作業

復元住居のシロアリ駆除

３．資料の収集・貸出

①資料の寄贈

博物館では以下のとおり、33件の資料の寄贈を受けた（受付番号14902〜14935・平成27年３月18日現在）。

ショイダル、餅ののし板ほか、弓張り、ガリ版、オヒキガネほか、チョウナほか、雪まつりパッケージたばこ、中国紙幣ほか、おさなみ織の着物ほか、膳椀ほか、妙高山関山神社の火祭りのワラジ、着物の端切れ、バケツ、吸物椀ほか、蓄音機ほか、紋付の着物ほか、信濃川で使用したイカリほか、古書籍･千人針ほか、越後縮のミズトウシほか、写真データほか、帝国日本里程細図、一斗マスほか、ネクタイ、旧滝文資料、金子借用証文などの古文書、刀ほか、羽織ほか、膳椀、着物ほか、旧睦織物で使用していた首里織帯の紋栓、中條平作家文書（仙田）、藕糸織、カケヤほか　　（太田 喜重）

雪まつりパッケージたばこ

おさなみ織の着物

信濃川で使用したイカリ

②実物資料の貸出

実物資料の貸出状況は以下のとおり、考古資料５件、着物資料２件、民俗資料（複製）３件、古文書資料（十日町情報館保管）３件の計13件である。　　（菅沼　亘）

貸　出　先	資　料　名（点数）	目　的（展覧会名など）
文　化　庁	野首遺跡火焔型・王冠型土器　計４点	「発掘された日本列島2014」（国内５館巡回）
滋賀県立安土城考古博物館	野首遺跡火焔型・王冠型土器　計２点	秋季特別展「造形衝動の一万年 ―縄文の宇宙／円空の衝撃／アール・ブリュットの情熱―」
長岡市馬高縄文館（長岡市立科学博物館）	中島・枯木遺跡深鉢形土器　計６点	夏季特別展「南三十稲場式土器を探る ―多様な沈線文の広がり―」
津南町農と縄文の体験実習館なじょもん	久保寺南遺跡出土品ほか　計61点	秋季企画展「魚沼地域の先史文化」
北の縄文道民会議	国宝・笹山遺跡火焔型土器レプリカ(No.1)　１点	「赤れんが北の縄文世界展」
十日町きものまつり・きものパレード部会	マジョリカお召・黒絵羽織ほか　計12点	十日町きものまつり
十日町織物工業協同組合	明石ちぢみ　１点	明石縮研究会（東京呉服店会）
下条地区公民館	旧三好村地籍図（情報館保管）　１点	公民館歴史教室
魚沼市教育委員会生涯学習課	貝野村離縁状関係文書（情報館保管）　計３点	第６回生涯学習体験ひろば（魚沼市生涯学習推進協議会）
南魚沼市教育委員会社会教育課	徳永重光家文書（情報館保管）　計３点	写真展「今成家写真と南魚沼の文化」 （南魚沼市・新潟大学人文学部）
あてま森と水辺の教室ポポラ	スゲボシ（複製）　７着	かまくらカフェ・オープニングセレモニー
十日町雪まつり実行委員会	スゲボシ（複製）　５着	第66回十日町雪まつり
長岡市馬高縄文館	アンギン袖なし（複製）　４着	縄文体験教室

実物資料の貸出一覧

③写真資料の貸出

写真資料の貸出件数は計110件、主な貸出状況は以下のとおりである。例年どおり、国宝・笹山遺跡火焔型土器をはじめとする考古資料が９割以上を占めている。その他には、越後アンギン、雪室、館内ジオラマ「縄文ムラのくらし」などがある。使用目的では教科書、テスト、問題集など教育関係が最も多い。（中山 未沙樹）

貸　出　先	出　版　物	貸　出　資　料	備　考
文　英　堂	『スーパー歴史年表』	国宝・笹山遺跡 火焔型土器	中学校問題集
㈲アートエフ	『中３　夏期講座テキスト』		
東京書籍 株式会社	『新編 新しい社会 歴史』		中学校教科書
株式会社 光文書院	『社会科資料集６年』		小学校資料集
光村教育図書 株式会社	『あかねこ夏スキル６年』		小学校問題集
光ミュージアム	特別展『エジプトvs縄文』展示パネル		
株式会社 平凡社	『別冊太陽 日本美術史入門』		
株式会社 アッシュ	『絶対に見ておきたい 日本の国宝』		
株式会社 セブンクリエイティブ	『はじめての土偶』	野首遺跡 三角形土偶	
株式会社 広告と写真	環境情報誌『SAFE』	雪室	
株式会社 グレイル	『戦国大名格付け』	青苧、苧	
株式会社 はる制作室	『図解 邪馬台国と卑弥呼』	竪穴のすまい（考古展示）	

写真資料の貸出一覧（主要なもの）

４．その他の事業

①資料保存対策事業

中里文化財資料収蔵庫の収蔵スペースが不足して、埋蔵文化財資料の整理作業が困難になっているため、高道山地区振興会、関係区長（高道山･朴木沢･宮沢･市之越・鷹羽・白羽毛・程島・東田尻）、地元集落住民および関係機関と協議を行い、同地区の高道山体育館を資料収蔵庫として使用することになった。これに伴って､スポーツ振興課から文化財課への所管替え(平成26年10月１日・十日町市高道山文化財資料収蔵庫・市内白羽毛辰697番地）を行っている。また、収蔵庫として利用するため、施設改修と電灯修繕を行い、スチール棚（50台）を設置した。これにより、新たな収蔵スペースとして約230㎡を確保することができた。なお、上記とは別に本年度寄贈を受けた資料を収納するため、川西文化財資料収蔵庫にスチール棚（15台）を設置している。（太田 喜重）

高道山文化財資料収蔵庫

②国宝発信事業

本事業では、博物館ホームページの更新作業および市内６か所に設置されている博物館案内看板の管理を行っている。基本的にホームページの更新は担当職員が行っているが、一部のメンテナンスについては業者に委託した。また、北越急行十日町駅の構内に設置されていた看板については、同駅の増床工事のため10月末をもって撤去されている。（菅沼　亘）

Ⅲ　調査・報告

特別寄稿

地域博物館の可能性

佐々木 秀彦（東京都美術館）

地域博物館にはさまざまな課題があります。博物館内部には予算・人員の削減、収蔵品の整理・公開・活用の不備、施設・設備の老朽化、使命のあいまいさ・特色づくりのむずかしさなどが挙げられます。博物館を取り巻く地域には、過疎化や高齢化、市町村合併の影響などがあるでしょう。

こうした状況に対して参考になりそうな国内外の取組みがあります。イギリスはイングランドのサフォーク地方の東アングリアン生活博物館。ここは博物館を町の活気をつくる拠点として、経済に貢献し住民の職業能力を高める取組みで成功しています。博物館の意味を再定義して「住民の能力や生計を築き、人のつながりを持続させ、地域への愛着を目に見えるかたちで育てる」としたのです。

気仙沼市にあるリアス・アーク美術館は歴史民俗資料と美術作品を扱うユニークなミュージアムです。常設展示を「食」をテーマにリニューアルさせ地域の人たちから支持を得ました。さまざまな切り口で地域の活性化に貢献しています。東日本大震災で甚大な被害を受けましたが震災の記録に力を注ぎ、常設展示として紹介しています。

私の勤める東京都美術館もリニューアルを機にさまざまな試みを行っています。東京藝術大学と連携し、アートコミュニケータを150人養成し鑑賞教育やガイドツアーなどの活動を展開しています。また、上野公園にある９つの文化施設と連携し、子どもたちのミュージアムデビューを応援する事業も始めました。伝統工芸の職人とデザイナーをマッチングさせ、現代に合ったデザイン性の高い伝統工芸品を生み出すプロジェクトも行いました。

こうした取組みから見えてくることがあります。それぞれの博物館は何をめざして活動するか、その拠りどころとなる「使命」が重要だということです。その一方で博物館には、それぞれの「宿命」があります。成り立ちや負ってきた歴史など、ある種の制約には抗えません。それを受け入れ、前向きに捉えることで、めざすべき使命は地に足の着いたものになるでしょう。そうした使命のもとに、かかわりあえる様々な「当事者」と対話し連携する。そのことで活動は広がり、深まります。博物館は地域の人たちが担い手として活躍する「舞台」となり、その地域の「入り口」として外から人を迎えます。職員は、こうした場をつくっていく「つなぎ手」の役割を果たします。

わたし自身経験してきましたが、職員の視点は変化していきます。ボランティアや友の会のコーディネートがミュージアム・マネジメントへ、そして地域課題にどう向き合うのか、コミュニティ・デザイン、コミュニケーション・デザインといったことに広がります。地域の課題に博物館の特性を活かしてどう貢献できるのか。そうすると博物館だけでなく、図書館や文書館、大学や研究機関、地域の様々な民俗など地域の文化資源を含めた連携が視野に入ります。こうした視点や視野の拡大の先に地域博物館の可能性が見えてきます。地域の価値を再発見し、資料と人、人と人、地域をつなげる。地域が活性化する、地域課題の解決に貢献する。つまり博物館のもつ力「ミュージアム・パワー」を最大限に発揮するのです。

十日町市博物館は、開館以来、友の会の活動が活発です。また市町村合併を通じ、市域の中心的な文化資源機関としての役割を担っています。十日町市博物館は2019年の開館予定で建物の全面改築が決まったと伺いました。これはたいへんな朗報です。これを機に地域博物館としての可能性をどう拓いていくか。地域の人たちが当事者として関わり、新しい展示を地域の入り口として、対話や交流の場をどうつくっていくか。大地の芸術祭などアートとの接点をどのように設定するか。実にやりがいのある挑戦です。新生・十日町市博物館の誕生、今から楽しみです。

館蔵資料報告

伊達八幡館跡出土の管耳瓶と龍耳壺

菅　沼　　亘（学芸員）

はじめに

ここで紹介する銅製の管耳瓶と龍耳壺が出土した伊達八幡館跡は、昭和62年(1987)に県営圃場整備事業に伴い、十日町市教育委員会により発掘調査された。平成20年(2008)には、これらを含む出土品281点が新潟県指定有形文化財（考古資料）に指定されている。同年、これを記念して当館で夏季企画展「十日町市の中世遺跡」が開催され、記念講演会の講師として招いた久保智康氏（元京都国立博物館・工芸室長）にこれらを実見していただいたところ、国内に類例がほとんどない、最古級の唐物（中国からの舶載品）であることが判明した。同遺跡の発掘調査報告書は平成17年(2005)に刊行されているが、この重要性に鑑みこの場を借りて改めて報告する。

伊達八幡館跡出土の銅製品（撮影：小川忠博）

伊達八幡館跡の概要

本館跡（市内伊達地内）は複郭式の居館で、空堀に囲まれた主郭と副郭の他にこれらを取り巻く外郭的区域で構成されている。主郭の規模は東西約40m、南北約50mを測り、郭内には掘立柱建物15棟、土橋１基、木橋２基、井戸２基、小空堀１条、排水溝１条などが存在する。副郭は主郭の西側に平行して隣接し、規模は東西約36m、南北約41mで、郭内では掘立柱建物11棟が検出されている。また、主郭・副郭とも土塁が築かれていた痕跡は確認されていない。外郭では、計23棟の掘立柱建物が検出されている。出土した陶磁器類の年代は12～17世紀前半におよぶが、主体は15～16世紀前半である。なお、管耳瓶と龍耳壺の他に、銅製の燭台２点、錫杖頭１点があり、これら５点は主郭の西側空堀底面から出土している（十日町市教育委員会2005）。

本館跡についての関連史料は皆無であるが、鎌倉時代後期に上野国（現群馬県）新田一族の鳥山氏の所領が妻有地方(旧十日町市・中魚沼郡)の「入馬・今泉・深見・倉俣」にあったことが知られ、「入馬」は館跡が所在する伊達地域の入間川上・中流域にあった村とされている。また、1333年（元弘３）の新田義貞による鎌倉幕府打倒の挙兵に際して、越後から参戦した新田一族の中に鳥山氏の名が記されている。この鳥山氏は南北朝時代以降も伊達地域に存続しており、本館跡と何らかの関連があったものと推定されている。

伊達八幡館跡の全景（手前中央が主郭、右上奥は副郭）

管 耳 瓶

この管耳瓶は、蝋型鋳造によって製作されている。下膨れで扁平な器体を呈し、頸部にはその名に由来する一対の管状の耳が付く。口縁端部に突帯が巡り、胴部両側面にも張り出し状の突帯が付けられている。底板は失われており、それをはめ込むための溝を残すのみである。体部には横位の無文帯

管耳瓶（正面・側面）

龍耳壺（正面・側面）

を挟んで細かな文様が施され、中でも胴部両面に見られる獣面文が特徴的である。高さ18.78cm、胴幅9.32cm、口径3.63×4.38cm、重量555.18ｇを測る。表面に被熱の痕跡が観察される。

久保氏によれば、本資料の獣面文は宋代倣古銅器の雰囲気をよく留めており、脚部の菱形内にS字文と雷文菱を組み合わせた文様も、中国における南宋から元代の出土品によく見られ、その製作年代は13世紀の南宋代までさかのぼるという（久保2010）。また、国内での類例は新潟県見附市片桐廃寺跡（破片）、岩手県北上市丸子遺跡、個人蔵の伝来品の３例のみである。

龍 耳 壺

この龍耳壺も蝋型鋳造により製作されている。広口壺に台が付いた器形で､肩部には竜をかたどり、環をもつ耳が付くが、もう片方は失われている。口縁部に１本、頸部に２本の突帯が巡り、肩部～台部には型押しによる文様帯が施されている。底板が大きく破損して穴が開いており、漆で補修した痕跡が観察される。高さ13.69cm、胴幅9.78cm、口径6.42cm、重量440.75ｇを測る。国内・中国においても類例がなく、製作年代は明確でないが、管耳瓶と同時代とみられている。

おわりに

本館跡の管耳瓶と龍耳壺は13世紀の南宋代に中国で製作され、日本に舶載品としてもたらされた唐物であることがわかった。当時､燭台（国産品）と合わせてこれらの銅製品は仏具としてだけでなく、武家においては座敷飾りとしても使用され、管耳瓶は茶湯の杓立として用いられていたこともわかっている（久保前掲）。館跡からは茶臼の破片が多く出土しており、この可能性も高い。また、館跡の主体となる存続年代が15～16世紀前半であることから、両者が長期に渡り伝世されていたこともうかがわれる。当時としては第一級の舶載品が当地域にもたらされた経緯については、前述した新田氏一族の鳥山氏が関係しているものと推定できる。

参考文献

久保智康 2008「新安沈船に積載された金属工芸品―その性格と新安船の回航性をめぐって―」『九州と東アジアの考古学』九州大学考古学研究室50周年記念論集

久保智康 2010「中世日本における倣古銅器の受用と模倣―唐物意識の内実―」『東アジアをめぐる金属工芸』勉誠出版

十日町市教育委員会 2005『伊達八幡館跡発掘調査報告書』

Ⅳ　博物館友の会

今年度、博物館友の会は設立35周年を迎えた。博物館がオープンする２週間前の昭和54年４月14日に設立総会が行われ、その趣意書には「これからは市民全体で、この施設を文化の殿堂に育てていかなければならないと考えています」と謳われている。当時、人口５万人規模の小さな自治体が博物館を建設するという偉業、そして、これを地域博物館として文化活動の拠点に位置づけ、積極的に地域文化の蓄積とその継承・活用を展開することができたのは、友の会が博物館と車の両輪のように常に協力体制をとり、地道な活動を展開してきたところが大きい。発足時の会員数は449名であったが、現在は819名となっている。友の会には、通常事業として総会（４月)、庚申供養祭（５月)、春の文化財めぐり（６月)、秋の文化財めぐり（10月)、雪まつり博物館ひろば開設（２月)、研究グループ発表会（3月）がある。また、植物、古文書、いしぶみ、歴史、方言、考古、近代史（世界遺産を学ぶ会)、民俗、織物と九つの研究グループがあり、各々活動日を決めて学習している。

本年度の主な事業は、以下のとおりである。

４月12日(土)　平成26年度友の会総会　　会場：博物館・特別展示室
　　記念講演会『写真から読み解く昔の十日町　―山内写真館資料の整理と成果―』
　　講師：高橋由美子氏（新潟県民俗学会理事）

５月17日(土)　庚申供養祭（アトラクション・三味線）　　参加費：2,000円　　参加者：30名

６月５～６日(木・金)　第78回文化財めぐり『世界遺産比叡山延暦寺・国宝彦根城、神の島竹生島を巡る旅』　　参加費：30,000円　　参加者：40名

10月10日(金)・16日(木)　第79回文化財めぐり『旧斎藤家別邸・柳都文化「新潟古町芸妓の舞」』
　　参加費：7,500円　　参加者：10日25名・16日24名

11月８日(土)　記念講演「イタリアの考古学　日本の考古学」(館と共催)　　会場：クロス10
　　講師：青柳正規氏（文化庁長官）　　参加者：450人

11月29日(土)　特別講演「地域博物館の可能性」(館と共催)　　会場：十日町情報館
　　講師：佐々木秀彦氏（東京都美術館学芸員）　　参加者：40人

12月　『35周年記念誌　古文書に学ぶ』(古文書研究グループ）刊行

平成27年１月17日(土)　須藤重夫氏（元古文書・歴史研究グループ助言者）
　　文部科学大臣表彰（社会教育功労者）受賞祝賀会

２月21～22日(土・日)　第66回十日町雪まつり博物館ひろば開設

３月14日(土)　友の会研究グループ発表会

なお、上記の他に友の会だより『火焔』№119（５月10日)、№120・35周年特集号（９月６日)、№121（平成27年２月７日）を発行している。　　（太田 喜重）

庚申供養祭

第78回・文化財めぐり

雪まつり博物館広場

附編　館の沿革（主要なもの）

昭和51年(1976)　文化財収蔵庫竣工
昭和53年(1978)　博物館竣工
昭和54年(1979)　博物館開館（4/27）・友の会設立（4/14）
昭和59年(1984)　開館・友の会設立５周年記念
　　シンポジウム「妻有の文化を考える」
昭和60年(1985)　十日町市史編さん室設置（平成8年まで）
昭和61年(1986)　越後縮資料の重文指定（3/31）
平成元年(1989)　開館・友の会設立10周年記念
　　特別展「池田満寿夫展」
平成３年(1991)　積雪期用具の重文指定（4/19）
　　新館・常設展示室オープン
平成４年(1992)　笹山遺跡出土品の重文指定（6/22）
　　重文・火焔型土器が「古代の日本展」
　　（ワシントンD.C.）へ出品
　　「雪文化三館」提携調印
平成６年(1994)　旧館・常設展示室リニューアルオープン
　　開館・友の会設立15周年記念
　　特別展「棟方志功展」
　　「越後アンギン・シンポジウム」
平成８年(1996)　「火焔フォーラムと縄文の夕べ」
平成10年(1998)　重文・火焔型土器が「縄文展」（パリ）へ出品
　　考古展示室（一部）・ロビーの改装
平成11年(1999)　開館・友の会設立20周年
　　笹山遺跡出土品の国宝指定（6/7）
　　梅原猛氏が名誉館長に就任（平成22年まで）
平成13年(2001)　国宝・火焔型土器№１の愛称「縄文雪炎」と
　　マスコットキャラクター「ほのおまる」が誕生
　　国宝・火焔型土器が「古代日本の聖なる美術展」
　　（大英博物館）へ出品
平成16年(2004)　開館・友の会設立25周年記念式典
　　中越大震災により被災（国宝の一部破損）
平成17年(2005)　周辺町村と合併し新十日町市誕生
　　ロビーの一部改装
平成21年(2009)　開館・友の会設立30周年・国宝指定10周年
　　記念特別展「縄文人の道具箱　野首遺跡展」
　　開館・友の会設立30周年記念式典
平成22年(2010)　国宝・火焔型土器№６が「日本の美5000年展」
　　（イスタンブール）へ出品
平成26年(2014)　開館・友の会設立35周年・国宝指定15周年

開館式（昭和54年）

「池田満寿夫展」（平成元年）

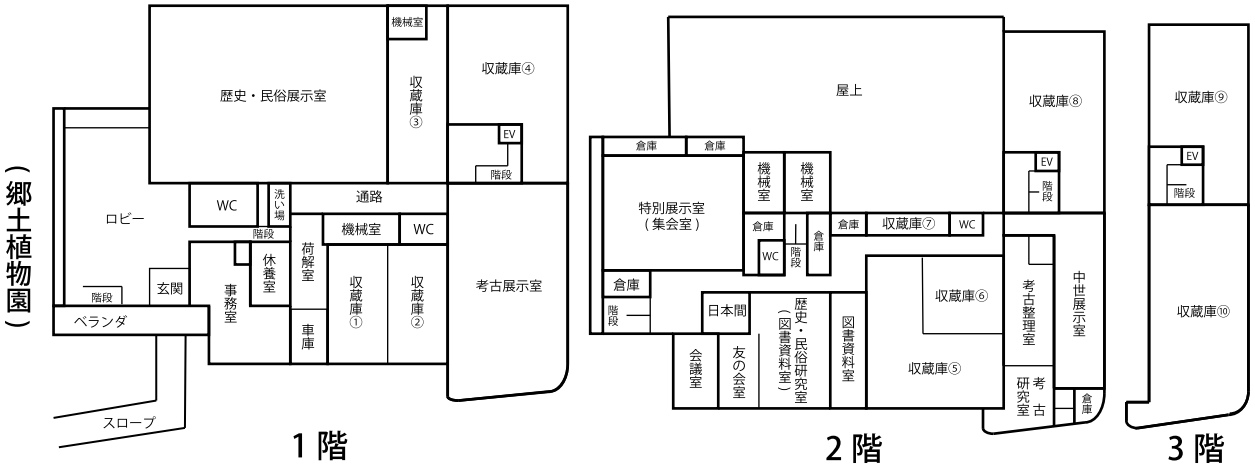
火焔フォーラム（平成8年）

国宝指定記念式典（平成11年）

国宝・火焔型土器が大英博物館へ(平成13年)

30周年記念式典（平成21年）

施設概要



（遺跡ひろば）

＜建物の床面積＞

1 階	1,855 ㎡
2 階	1,439 ㎡
3 階	458 ㎡
その他	56 ㎡
合計	3,808 ㎡

＜屋内施設＞

歴史・民俗展示室	476 ㎡	収蔵庫①	79 ㎡	収蔵庫⑥	69 ㎡	事務室・休養室	123 ㎡
考古展示室	278 ㎡	収蔵庫②	79 ㎡	収蔵庫⑦	23 ㎡	歴史・民俗研究室・資料室	143 ㎡
中世展示室	115 ㎡	収蔵庫③	104 ㎡	収蔵庫⑧	164 ㎡	考古研究室・整理室	115 ㎡
特別展示室（集会室）	181 ㎡	収蔵庫④	191 ㎡	収蔵庫⑨	164 ㎡	会議室・日本間・友の会室	94 ㎡
展示室　計	1,050 ㎡	収蔵庫⑤	160 ㎡	収蔵庫⑩	247 ㎡	その他	1,003 ㎡
				収蔵庫　計	1,280 ㎡	共用部　計	1,478 ㎡

＜屋外施設＞

郷土植物園　3,010 ㎡　　遺跡ひろば　3,008 ㎡

博物館の外観

遺跡ひろば（昭和 63 年開園）

郷土植物園（昭和 61 年開園）

〈平成26年度　博物館職員〉

館長	佐野 芳隆	調査研究員（嘱託）	宮内 信雄
副館長	佐野 誠市	事務支援員	中山 未沙樹
副館長・学芸員	石原 正敏	臨時職員	角山 誠一
主査	矢口 ヨネ子	臨時職員	阿部 智美
主査	太田 喜重	臨時職員	阿部 美記子
主査・学芸員	菅沼 亘	臨時職員	涌井 美保子
主査・学芸員	笠井 洋祐	臨時職員	田村 薫
主査	大滝 孝子	臨時職員	引間 佳子
主任・学芸員	阿部 敬		
主事	田村 典子		

十日町市博物館 年報 第１号

編集・発行：十日町市博物館

〒948-0072 新潟県十日町市西本町１　TEL:025-757-5531 ／ FAX:025-757-6998

URL: http://www.tokamachi-museum.jp ／ E-mail: museum.10@city.tokamachi.lg.jp

発行日：平成27年(2015) 3 月31日　　印　刷：株式会社 滝沢印刷